

教 育 長 様

代表者 校園名：大阪市立本田小学校

公印

校園長名：錢本 三千宏

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

申請者校園名：大阪市立本田小学校

職名・名前：首席教諭 流田 賢一

電話：6581-1531 F A X：6581-3194

代表者校園 事務職員名：大谷 由香

平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究 報告書

◇ 平成 28 年度 「がんばる先生支援」個人・グループ研究について、次のとおり報告します。

1 研究コース：

個人研究コース ・ グループ研究 A コース ・ グループ研究 B コース

継続研究：（ 2 年目 ・ 3 年目 ・ 4 年目 ）

2 研究テーマ

社会で学び続ける資質・能力を育成する国語科の授業のあり方

◆ 研究内容のキーワード：

国語科 児童主体 協働学習 アクティブ・ラーニング 学習意欲向上 コミュニケーション能力
ICT を活用 指導の系統性 教師の指導力向上 新学習指導要領 資質・能力 学力向上

3 研究目的：

- 新学習指導要領でめざす児童の育成
- カリキュラムマネジメントと学習評価の充実
- 汎用的能力を身につけ、社会で活用できる児童の育成
- 指導力を向上させ、アクティブラーニングの視点をいかした授業の方法
- ICT を活用した授業（情報活用能力の育成）
- 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催
- 先進的研究校から講師を招聘し、公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大

4 取り組んだ研究内容：

6 月 10 日 11 日 先進的研究校を視察し、新学習指導要領で目指すべき教育を全国の先生方と交流することを目的とし、筑波大学附属小学校研究会に参加

6 月 25 日 元筑波大学附属小学校の白石先生と全国の仲間と物語文の教材研究をするために、研修会に参加

6 月 27 日 大阪府市の先生方と研究テーマにある国語科の授業のあり方について考えるために、公開授業研究会を実施

7 月 2 日 先進的研究校において、国語科だけでなく算数科、理科、図画工作科の公開授業を見学し、授業づくりについて話し合う

7 月 11 日 説明文を読み、筆者の主張に対して自分の考えを批判的に読み取る発表の場として、筆者に来校いただき児童と交流会

8 月 2 日 3 日 新教材を教材研究し、児童につけたい力を育成するための授業のあり方を考えるために、元筑波大学附属小学校の白石先生と全国の仲間と合宿

8 月 4 日 5 日 全国の仲間と授業研究について話し合うために、全国国語授業研究会に参加

8 月 9 日 研究会で物語文のワークショップを開催

8 月 19 日 大阪市教育センターの教育課程研修会で、説明文の授業づくりについて発表

9 月 1 日～7 日 国際学会で国語の発表

10 月 7 日 ICT 公開授業研究会 国語科物語文の場面分けをする授業

10 月 26 日 説明文の筆者に来校いただき、説明文の話

11 月 7 日 説明文の公開授業研究会

2 月 9 日 10 日 筑波大学附属小学校公開授業研究会に参加

5 成果・課題 :

本研究は、次期学習指導要領で必要となる資質・能力を育成することをめざしたものである。ここでいう「資質・能力」を「社会で学び続ける」とテーマに挙げた。社会で学び続けるとは、授業で学んだ知識を他の場面で活用できる力であること。そして、授業だけで学びが終わらずに、広げられることを意味している。アンケートでは、社会への関心とコミュニケーションをはかる。そのためには、児童の学力向上だけでなく、教科に向かう姿勢を向上させるための国語科授業のあり方を研究することとした。授業公開における児童の姿を元に、本校教員だけでなく、大阪府・市の教員と新しい授業像について交流してきた。

公開授業研究会で、参加者にアンケート調査をした。次期学習指導要領で示されている「資質・能力」について回答（2017年1月実施）（表1）を得た。昨年の8月に論点整理が出されたが、次期学習指導要領の内容を「聞いたことがある」という教員は半数、「分からない」「知らない」という教員は半数だった。たが、公開授業や講演会により、そのイメージをつかむことができたと回答した教員は多数いた。そのため、実践を交流しながら話し合いをすることの重要性を実感した。

国語科の授業づくりで課題(2016年6月アンケート実施)として出たのが、右の表である。課題づくりに課題を持っているのは、大きな課題と言える。だ

教材研究	課題づくり	単元計画	つける力
24%	48%	4%	24%

表1 教員アンケートの結果

が、この中で注目すべきは、「教材研究」と「国語科でつけるべき力がはっきりしない」という項目に4分の1もの教員が課題を感じている点である。つけるべき力を焦点化して研究するために、批判的思考力（クリティカル・リーディング）を研究対象とした。

説明文「生き物は円柱形」の筆者本川氏とは、児童が説明文の主張に対して意見をもち、プレゼンテーションで考えを述べる学習のときに来校いただき、児童に話ををしていただいた。この中で、説明文に書かれている内容をクリティカルに読み取ることを学習した。また、説明文「天気を予想する」の筆者武田氏とは、平成23年度版教科書と平成27年度版教科書を比べ読みし、筆者の意図を読み取る学習をした。なぜ、説明文を書き換えたのかを考えて、その後筆者に話ををしていただいた。この公開授業では、児童がクリティカルに読み取った後、実際に筆者に話を聞けたことが児童の学習に大きな影響を与えた。それは、文章を書いている人に出会えたことで、書き手の意図を聞くことができたからである。児童へのアンケート結果からもわかる。コミュニケーション能力の育成はできつつある。国語科の授業が教室にとどまらず、社会に

関心を持つようになってきたことは成果であった。

	6月	1月
発表で理由がわかるようにする	64%	84%
話し合いで考えが深まるようにする	62%	76%
社会問題に関心がある	44%	82%
国語の学習は将来必要である	56%	78%

表2 児童アンケートの結果

講師先生を招いての公開研究授業では、多くの先生方と国語の授業づくりについて考える機会をもった。1学期には説明文「生き物は円柱形」で2クラス公開をし、授業づくりについてお互いに提案している姿を参観者に見ていただいた。授業後の協議会では、授業づくりにおいて大切にした点や、教員アンケートにより、つけたい力が明確でないと課題をもっている割合が高かったので、授業のねらいについて話をした。最後に、講師先生からの講演会をいただいた。この講演会では、教員のもつ課題に沿って国語科の授業づくりについて話していただいた。3学期には、物語文「サボテンの花」で2クラス公開をし、前回と同じようにお互いに提案している姿を参観者に見ていただいた。授業後の協議会では、教材を使って何を教えたのかを指導者が明らかにすることの大切さを話し合った。講演会では、「学力をつけるための国語科授業づくり」というテーマで話ををしていただいた。この2回で500名程度の参加があり、本校から発信する研究の流れを作ることができつつある。参観者からは、「国語科の授業づくりについて、実際に授業を見ることで具体的なイメージをもつことができた」「同じ教材でも切り口が違うのは、2人の授業のねらいが違うからだとわかりました」とアンケートの感想をいただいた。児童の姿を見ていただき、大阪市に限らず大阪府の教員と連携をとり、研究を進めることができたことは成果である。

課題は、次期学習指導要領で示されている「資質・能力」はまだ研究途中である。どのような力を育成するのかを今後も実践研究し、明らかにしていきたい。また、児童についていく力を整理し、社会で活躍するために必要な力を育成していきたい。

6 研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。

日程 平成28年 6月27日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 300名
平成28年 7月11日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 40名
平成28年 10月26日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 40名
平成28年 11月7日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 45名
平成29年 1月23日	場所：大阪市立本田小学校	参加者数：約 200名

